

## 長浜市「挑戦と創造」の懇話会 議事要点録

I 日 時 平成30年8月1日（水曜日）15時00分～16時45分

II 場 所 長浜市役所3階 3-B会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（座長） 松島三兒委員（副座長）  
村山ジェラルディン委員 妹尾康裕委員 宮本麻里委員  
吉井大祐委員 箕浦淳委員 吉田真理子委員  
前川加奈子委員 松井善典委員  
【事務局】古田総合政策部長、横尾総合政策課長、柴田課長代理、  
服部主幹、山田主査、田中主事

### IV 資 料

（資料1）懇話会委員名簿

（資料2-1）平成30年度長浜市民満足度調査結果に基づく取組一覧（高重要度×高満足度）

（資料2-2）平成30年度長浜市民満足度調査結果に基づく取組一覧（高重要度×低満足度）

（資料3）総合計画重点プロジェクトの取組

（参考）平成30年度長浜市民満足度調査について

（参考資料）長浜市総合計画 概要版

### V 内 容

#### 1 開 会

事務局 開会のあいさつ

#### 2 議 事

（1）市民満足度調査結果に基づく施策の取組について

##### ●産業について

委員 仕事はたくさんあるが、企業として良い人材が集められていないことがあるのではないかと。長浜市として、大きな企業の誘致は色々やっているが、設備投資についてはできることは限られている。

経済は少しずつ上向きとなっており、雇用についてはうまくマッチングできれば満足度も変わるのではないかと。

座長 行政が関与するのは難しいとも思われる。

委員 設備投資は、市よりも国や県の補助などを受けるのが通常だが、そこまでは一般市民にはわかりにくい。雇用は外国人労働者の人が増えていて、地元の人には実感しにくいのではないかと。

また、長浜バイオインキュベーションセンターに関しては、バイオ関連の企業は成果が出るまでに時間がかかるということもある。

事務局 企業誘致については用地が限られており、新規の事業者参入はあまりない。既存

企業の敷地を拡張するにも農地法上の制約があるということもある。流出については目立った動きはない。

委員 事務職の求人に対する応募は多いが、飲食などサービス業は人が集まりにくいのではないか。女性が働く際には、託児所の有無や、時間や休みの融通がきくということが重要と思われる。

委員 流出した企業とのネットワークなどはあるか。  
事務局 企業流出については目立った動きはなく、市内の主な企業に市長が訪問するなどして繋がりをつくっている。

座長 IT企業がサテライトオフィスを中山間地域に構えるという動きがある。徳島の神山町、三好市、島根の松江など。東京・大阪より、通勤が容易であったり、子育て環境が整っていたり、創造力が高まるということもある。IT企業の誘致という施策も考えられるのではないか。

委員 米原から北部へのアクセスや光回線などのインフラの整備が課題になる。

座長 新しい働き方を長浜でできるという仕組みがあっても良いと思われる。

座長 鳥獣害対策について余呉ではよく聞くが、市だけでは難しいこともあると思う。  
事務局 柵の補助やカワウの駆除は県とあわせて進めているが、事業として営まれているところへは補助支援をしているが、個人や自給用に対しては補助できていない。

#### ●公共交通について

座長 バスの利用者は少ない。これ以上予算をかける必要はあるのか。デマンドタクシーは、サービスの向上と経費の削減につながる解決策の一つと思われる。

委員 高齢者の交通事故が絶えない中、免許を返納したあとのデマンドタクシーの利用促進については、個人のニーズに柔軟に合わせる事が重要と考える。高齢者が引きこもらずに出かけることを維持できるような交通が必要。  
米原では集落の中で運営し、うまくいっている事例もある。

事務局 バスに対して不満があるという中で、十分利用されていないという点がある。担当課は乗ってもらおうという意識改革をしていくと聞いている。

また、高齢者にはタクシーを呼ぶのは贅沢、という考えもあると思われる。

座長 デマンドタクシーについては、十分知られていないということもある。

委員 高齢化による認知症などの問題がある中、免許返納については本人の抵抗感がある。

事務局 法律改正に伴い、免許更新が厳しくなったりもしている。デマンドタクシーについては先進事例研究も進めていく。

#### ●公教育について

委員 英語教育については、日本ではテストのための勉強となっていて、会話が足りていないと感じる。長浜市には外国人がたくさんいるので、活用できれば良い。

委員 幼いころから、保育園などでコミュニケーションの一環として、外国の文化にも触れていくというのが良いのではないか。

委員 子どもが話したい気持ちを培うことや、英語を使って自らの考えを公表できるような場所を身近に設けるなどの工夫が必要と考える。

委員 サンサンランドなどの取組は子どもの参加も多い。English Cafeなどを広報することも必要と思う。

座長 学校教育は英語だけではないが、重点プロジェクトの1つで「人づくり」をテーマとしている中、教育への評価が低いのは問題である。もう少し不満の内容を調べて対応する必要がある。

座長 発達しょうがいに対する市としての対応はどうか。

事務局 小学校にスタッフを加配しているが、十分に対応できるだけの人数を確保できて

- いないとも聞いている。
- 委員 長浜市では特別支援のための先生は置いていないと聞いている。むしろ小学校に入る前に、保健師などによる健診や情報共有を図るなど手厚い対応をしていただいている。
- 座長 小学校教員の配置について市が関与しにくいということはあるだろうが、何が不満の原因か究明して、きめ細かい取組が必要と考える。

●検診、医療体制について

- 委員 検診を受けられた方が満足しているというのは、保健師や医師会などの積み重ねと実績によるものと思う。一方で、特定健診の受診率は県内ワーストであり、行政としては満足されていないはずで、この認識の乖離は何なのかと思う。病院連携もされているが、住民の安心の確保や人口流出の面からも、急性期の拠点が長浜にあり、周産期、予防ふくめて地域医療体制をもっと充実していく必要がある。
- 事務局 急性期については重要という認識で、病院間の連携を進めていく必要があると考えている。
- 委員 お母さん自身が検診を受けられていないということも聞く。
- 委員 乳がん検診などは民間ホテルなどでも行っていて、他地域と比べると手厚いと思われる。

●子育て支援について

- 委員 子育てへの経済支援についてありがたい。職場復帰に前向きになるという声を聞く。子どもの見守りのスクールガードの登録者も多く、特に余呉では充実していると感じる。
- 委員 保育園までは保健師さんの細やかなケアなど手厚い対応をしていただいている。反面、小学校になると学校に預けてしまい、子どもの様子がわかりにくいと感じることもある。
- 座長 幼稚園・保育園と小学校をしっかりとつなげる仕組みが必要ではないか。
- 委員 発達支援などはデリケートなことなので、自分の住む地域とは少し離れた場所で、また些細なことでも気軽に相談できるような仕組みがあればありがたい。
- 座長 子育て相談については、気軽に相談できる体制づくりを進めることが課題といえる。
- 委員 保育園や幼稚園は厚労省が所管で福祉的な側面が強いが、学校教育は文科省が所管で管理という側面が強い。その分断が問題になっている。地域共生社会というフレームで学校を捉えたときに、福祉的な視点や個別支援をしていくことが重要ではないか。
- 委員 保育園や幼稚園と小学校のつながりは現状では薄く、先生同士も双方の活動やニーズについて深く知らない状態であり、一層の連携を図る必要と考える。
- 委員 データヘルス計画では、乳幼児健診から通信簿までをデータベース化して一貫して子どもの育ちにつなげるとされているが、それを使って包括的なケアする仕組みが必要である。

(2) 総合計画重点プロジェクトの取組について

- 座長 各プロジェクトはどんな体制か。
- 事務局 各プロジェクトのトップは各テーマの主となる部の部長が務め、他部局からこれまでの行政経験を活かして10名程度のメンバーで進めている。
- 委員 予算化にあたっては、プロジェクトを実施する担当課において、予算要していく。プロジェクト4について、バイオ大学学長を中心に地域の野菜をブランディング

- しようとしていて、引き続き力をいれてほしい。
- 委員 プロジェクト5について、田村の地域らしさを活かしたものとしてほしい。
- 委員 プロジェクト2について、待機児童の問題となると都市部のものに聞こえるが、過疎地域の子どもに対する取組も必要である。
- 委員 プロジェクト5のような南の地域の発展と合わせて、北部にも目を向けてほしい。新しいものを造って良くするだけでなく、元々あるものにも目を向けていくべき。プロジェクト6の支えあいについては、過疎地域での高齢化が進む中、防災などについて地域の人だけでは限界があるのではないか。ビジネス化も考えていく必要がある。子どもの見守りなども含め、5～10年後も見据えて、次の担い手を育成することも重要である。
- 委員 プロジェクト2について、一時預かりやパパママ・リフレッシュ事業などのニーズはたくさんあるので、さらに充実させてほしい。
- 委員 プロジェクト5について、(これから家を建てる世代の人が集まって)田村駅整備のワークショップを行った。色んな意見が出ており、いろんな市民意見をふまえた駅整備になればと思う。
- 委員 プロジェクト2について、H31年度からの3～5歳児の無償化が始まるが、乳児の定員が増えておりそのまま進級するので、途中から保育園に入れない状態になることに対して危機感をもっている。
- 委員 プロジェクト1について、長浜には本屋など知的好奇心を満たすようなものがなく、子どもが長浜から出て行ってしまうということがある。高校生や女性など、出て行く人にヒアリング調査をしないと有効な施策が出ないと思う。
- 座長 プロジェクト3と関係するが、過去のもものがどう未来につながるのかを若い人に示すことが必要と考える。
- 座長 今日得られた視点を活かしていつて来年度以降や次期の総合計画の中で検討していただきたい。

### 3 その他

- 事務局 次回は10月上旬に開催予定。

### 4 閉会

- 事務局 総合政策部長よりあいさつ

以上